

山陰経済動向

生産活動が一進一退で推移し、設備投資の増勢も一様ではないものの、個人消費の一部では持ち直しの動きもみられ、雇用情勢が改善傾向にあるなど、基調としては緩やかに持ち直している。

最近の国内経済については、一部に改善の遅れもみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

このような状況のもと、当地経済をみると、

公共投資は、12月の公共工事請負金額は3カ月ぶりに前年を上回り、持ち直しの動きがみられる（2016年4～12月累計の対前年比は2.2%増、全国2.7%増）。

設備投資は、2016年度は、非製造業で前年度を下回るものの、製造業では前年度を上回り、全産業でも前年度を上回る計画（日銀短観12月の全産業設備投資額は、2015年度実績対前年度比18.6%増、2016年度計画同6.6%増）。

住宅建設は、11月の新設住宅着工戸数が5カ月連続で前年を上回り、持ち直しつつある。

個人消費は、大型店売上高（12月）が2カ月連続で、家電量販店販売額（11月）は3カ月ぶりに、それぞれ前年を下回った。一方、乗用車新車登録台数（12月）は5カ月連続で前年を上回った。弱めながらも一部では持ち直しの動きもみられる。

生産は、11月の鉱工業生産指数（季調済指数）が、鳥取県は3カ月ぶりに、島根県は2カ月連続で、それぞれ前月を上回った。業種間での好不調の差などによる振れがみられるものの、総じて横ばい圏内で推移している。




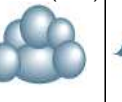

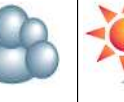

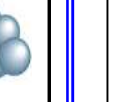





雇用情勢は、11月の有効求人倍率が、鳥取県では前月差0.06ポイント低下の1.39倍、島根県では前月差0.02ポイント上昇の1.49倍となった。緩やかに改善している（全国は1.41倍）。



企業の業況判断は、足元、製造業、非製造業ともに改善し、全産業でも改善となった（前回2 今回6）。先行きについては、製造業、非製造業ともに悪化を見込んでおり、全産業でも悪化の見通しとなっている（日銀短観12月調査）。

このように、当地の景気は、生産活動が一進一退で推移し、設備投資の増勢も一様ではないものの、個人消費の一部では持ち直しの動きもみられ、雇用情勢が改善傾向にあるなど、基調としては緩やかに持ち直している。

先行きについては、一部で鳥取県中部の地震による影響が懸念されるものの、個人消費の緩やかな持ち直し基調が続くなかで、生産が底堅く推移し、雇用情勢の改善傾向も続くと思われることなどから、緩やかな持ち直しの動きが続くものと予想される。

【当地景気の現状判断】

<全体>	1. 公共投資	2. 設備投資	3. 住宅建設	4. 個人消費	5. 生産	6. 雇用情勢	7. 企業の業況判断
							
現状判断の5分類	明るい 	一部に明るさ 	停滞 	不振 	厳しい 		

注：  は先月より上方修正、  は同じく下方修正を示す。() は修正の一手手前の状況。